

不登校対策を含めた 学校と地域の連携について

(教育民生常任委員会・所管事務調査報告)

令和2年3月

高松市議会

高松市議会では、毎年度、常任委員会ごとに、委員会の所管事項のうちからテーマを設定し、閉会中継続調査（所管事務調査）を行っております。

そこで、教育民生常任委員会としては、令和元年度の調査テーマを「不登校対策を含めた学校と地域の連携について」に決定し、鋭意、調査検討を重ねるとともに、市民との意見交換会及び2回にわたる高松第一高等学校生徒との意見交換会での意見を踏まえ、このたび委員会として調査結果を取りまとめたので、以下、報告いたします。

1 現状及びテーマ選定の理由について

本市では、昨年度より、全ての市立小中学校を高松型学校運営協議会を核とする高松型コミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校づくりを推進し、不登校を生まない学校づくりに取り組んでおり、一方、不登校になった児童生徒への支援については、教育支援センターの充実などに取り組んでいます。そこで、本委員会としても、地域ぐるみで子供たちを育む機運をさらに高めることに加え、将来を担う若者支援をさらに強化する必要があるとの観点から、令和元年7月5日の委員会で所管事務調査テーマに選定しました。

2 委員会等の開催状況及び活動内容について

(1) 教育民生常任委員会

① 令和元年8月1日 当局からの現状等の説明・質疑応答

〔当局の説明概要〕

学校と地域の連携については、子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題が複雑化・困難化する中、課題を解決し、未来を担う子供たちの豊か

な成長を図るために、これまで以上に、学校と地域の積極的な連携・協力が
必要であり、社会総がかりでの教育の実現が不可欠である。

そのため、本市では、学校評議員制度や学校関係者評価委員会など、こ
れまでの各学校の取り組みを整理・統合し、学校と地域は、互いに子供た
ちの健やかな成長のために意見を述べ、協力する協同体であるとの考えの
もと、校長が作成する学校運営の基本方針への承認権を付与しない高松型
コミュニティ・スクールを導入し、学校教育を通して、子供・保護者・地
域住民が地域への愛着を持ち、コミュニティの一員として互いに尊重し
ながら、豊かな市民生活を目指す教育を推進している。

次に、不登校の現状等については、本市では、不登校児童生徒の推移は、
小学生がやや増加傾向にあり、原因としては、無気力や不安などの情緒的
混乱が高い割合を占め、その要因としては、人間関係や学業不振が高い割
合を占めている。また、小中学校ともに 90 日以上欠席している児童生徒
が半数以上を占め、出席日数がゼロの者もあり、不登校が長期化している。
そのため、教育支援センターへの通室児童生徒数は、徐々に増加している。

次に、不登校に対する施策については、まず、児童生徒への支援として、
教育支援センターの開設のほか、ICTを活用した学習支援システムの提
供や、体験活動を取り入れた事業等の実施、また、親子への支援として、
定時制や通信制高校等の情報を提供するフレンドシップ進路説明会や、カ
ウンセラーによる教育相談・訪問支援、さらに、保護者への支援として、
大学教員やカウンセラー等の専門家が講演や悩み相談を行う不登校を考え
る会のほか、昼間、仕事等で親の会に参加しづらい保護者を対象とした親
の会夜会の開催、また、学校への指導・支援として、不登校に係る各種研
修会の実施や、学校訪問時の教育相談担当者との面談のほか、スクールカ
ウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置や、不登校対応マニュアル

ル高松市不登校支援Q & Aの作成に取り組んでいる。

一方で、今後の課題としては、不登校を生まない学校や家庭・地域等の環境づくりを初め、低年齢化への対応や、就学前から卒業後までを視野に入れた切れ目のない支援体制の構築である。

- ② 令和元年9月18日 視察先の選定・視察項目の検討
- ③ 令和元年12月17日 先進地視察後の委員間討議
- ④ 令和2年2月18日 取りまとめ案の確認

(2) 視 察

令和元年10月16日・17日 先進地視察

○大分県別府市

- ・家庭訪問型アウトリーチ支援事業の取り組みについて
- ・不登校の未然防止の取り組みについて

○山口県下関市

- ・コミュニティ・スクールの取り組みについて
- ・コミュニティ・スクールの実践事例について



16日 大分市



17日 別府市

(3) 意見交換会

- ① 市民との意見交換会
令和元年11月19日
- ② 高松第一高等学校生徒との意見交換会

令和元年 10月4日・11月18日

3 委員会としての提言内容について

〔3月3日の委員長報告（閉会中継続調査終了）〕

(1) 学校と地域の連携について

- ① 地域とともにある学校づくりを進める理念浸透のため、本来の制度に沿ったコミュニティ・スクールへの移行を目指すこと。
- ② 学校運営協議会で活発な議論が行われ、学校・地域の人材の活用やニーズ等の情報共有ができるよう、コーディネーターによる学校と地域をつなぐコーディネート機能の充実など支援体制の整備を図ること。
- ③ 児童生徒に、将来にわたる地域とのつながりの確保や、学校と地域が共有する課題の解決をしていくために、スクールソーシャルワーカーなども含めた、中学校区など広域での連携の体制整備を検討すること。

(2) 不登校対策について

- ① 高松市不登校支援Q&Aの内容に沿った対応に努めること。
- ② 教育支援センターと学校のより一層の連携や、学校の教育相談室での地域人材の活用など、登校を支援する体制の充実を図ること。
- ③ 家庭支援として、まるごと福祉相談員や子育て世代包括支援センターの活用など、福祉部門との連携を強化し、積極的にアウトリーチを活用した取り組みを検討すること。
- ④ 教育支援センターの拡充や民間施設等との連携により、不登校になっても支援できる環境づくりとして、より一層、不登校の子供の居場所づくりや多様な学びの場の充実を図ること。